

STATION Ai  
パートナー拠点

スタートアップ支援・企業誘致

16社

新工場の  
着工・完成



# Year in Review 2023

## 10大ニュース特集号

おおぶこども輝く未来応援八策 策定

### こどもどまんなか

新たな吉田保育園の開園  
こども未来応援金・応援サポーター宣言  
市内中学校の給食費無償化発表  
産前・産後サポーター派遣事業  
認可保育園などでの紙おむつ処分

大活躍！  
おおぶKIDS

平和なまち絵画1位 ダンス世界1位  
中学野球部全国2位 剣詩舞全国1位  
将棋西日本ベスト8



市内全小学校での  
バイオリン授業開始  
歴史民俗資料館での  
特設展示開始  
野外クラシックコンサート開催

## 市民みんなので バイオリンの里へ

健康経営企業支援と交流  
中学校の部活動地域移行  
小学校水泳の民間活用

### 笑顔で働き

### 笑顔で暮らす

認知症や自死への対策・  
健康増進・人権条例の制定

## 持続可能なまちの未来図

王滝村・木曾町との木材活用協定・EV促進(バスや公用車  
にEV導入・企業協定・充給電設備購入費補助の開始)・  
環境にやさしい有機農業の促進・プラ資源の一括回収開始

環境に優しいまちの実現へ

## 物価高騰支援

水道基本料金の無償化・プレミアム付  
商品券販売・ひとり親家庭への支援

5類へ移行

## 新型コロナウイルス

初開催 大相撲大府場所・公共施設  
制限解除・再開 交流都市への派遣

## 防災減災

防災アプリ導入・企業や大学との連携  
ドローン導入

## 交通安全

スマホを用いた安全運転プロジェクト  
ゾーン30プラス運用開始

# こども輝く未来 応援八策策定

## こどもどまんなか

### 応援サポーター宣言



8月28日、大府市長が定例記者会見で、子ども・子育て支援のさらなる充実を目指して、「おおぶこども輝く未来応援八策」を発表した。

大府商工会議所青年部などが応援サポーターに就任した。

#### 子育て支援をさらに強化

4月から、保護者の負担軽減や衛生面を考慮し、全ての認可保育園などで使用済み紙おむつの処分を開始した。

同月、誕生した赤ちゃんのお祝いと、子育てに係る生活支援として、「こども未来応援金(15万円(妊娠時5万円・出産時10万円))」の支給が始まった。

さらに、子どもの高校受験を控えるひとり親家庭などを応援するため、中学3年生を対象に学習塾利用費用の助成を開始した。

9月7日、令和5年度3学期から市内中学校の給食費を完全無償化すると発表した。

10月から、多胎児の一時保育事業と多胎児家庭支援事業(一時預かり事業)の利用対象年齢の下限を満1歳から満6カ月月に拡大した。

同月16日から、産前・産後サポーターを利用者の自宅に派遣し、調理・洗濯などの家事やおむつ交換、沐浴介助などを支援する「産前・産後サポーター派遣事業」を開始した。

#### 吉田保育園開園



▲吉田保育園新園舎

4月、吉田保育園と采田保育園を統合した、新たな吉田保育園が開園した。

10月2日から、吉田保育園での一時保育事業を開始した。

8月27日、子ども会大会で、岡村市長が「大府市こどもどまんなか応援サポーター宣言」を行った。

#### こどもの輝く未来を応援

翌日に発表した「おおぶこども輝く未来応援八策」内では、子どもに関わるあらゆる立場の方が協力して、地域の中で子どもを育む「こどもどまんなかおおぶ」を築いていくことを掲げ、その決意としてこの宣言を実施した。

宣言後、趣旨に賛同した市内全コミュニティ推進協議会や全自治区、

#### 地域企業・市民とつながる防災



3月1日、防災情報アプリ「おおぶ防災行政ナビ」の運用を開始した。

5月13日、スギ薬局と連携し、大規模災害発生時の対策として地域防災を考えるイベントを実施した。

8月24日、藤田医科大学と災害時における支援活動に関する協定を締結した。

11月22日に市消防本部が災害時の人命救助や情報収集活動に活用するため、ドローンを導入した。11月25日に南海トラフ巨大地震と、巨大地震に起因する災害を想定した地域総ぐるみ防災訓練を実施する予定。

### 安心して暮らせるまちへ

#### 防災減災・交通安全対策

##### ソフト・ハードの両面で

##### 交通安全対策

通学中の子どもを守るため、さまざまな交通安全対策を実施した。3月に大府中学校周辺2カ所に「狭さく」を、4月に横根立会池公園周辺にラバーポールを設置した。さらに9月には、北山小学校区の一部を「ゾーン30プラス」の区域として整備した。

スマホアプリを利用し、生活道路の自動車運転データを収集・分析し、効果的な交通安全対策につなげる「Juricargoプロジェクト」を推進し、データを基にイメージランプを設置するなどの対策を実施した。



#### 環境に優しいまちの実現へ

##### 次世代へつなぐ環境対策

4月、これまで回収してきたプラマークの付いているプラスチック製容器包装に加え、資源にできるプラスチック製品も同じ袋で集める「プラスチック資源の一括回収」を開始した。

7月1日、長野県王滝村・木曾町と「水源の森林の保全・育成に関する連携協定」を締結した。木曾川上流の2町村と連携し、木材を活用した事業・イベントに取り組んでいる。

6月、農業・化学肥料を使用しない有機農業によるコ



「水源の森林の保全・育成に関する連携協定」締結

2023年、経済産業省が創設し、日本健康会議が認定する「健康経営優良法人2023」に大府市役所が認定された。

3月23日、大塚製薬(株)と「健康つくりの推進等に関する連携協定」を締結した。

6月12日、市・大府商工会議所・全国健康保険協会愛知支部が共催する健康経営実践企業交流会を開催し、健康経営に取り組む市内15企業の従業員が意見交換した。

県が創設した「休み方改革」プロジェクトの一環として、市内小・中学校に「ラーゲーションの日(※)」を導入するとともに、11月24日を「県民の日学校ホリデー」として学校休業日とする予定。その他、中学校の部活動の地域移行に向けたモデル事業や全小学校全年の水泳授業の民間活用が始まった。

#### 笑顔で働くために

### 健康都市おおぶ独自の施策

##### 笑顔で暮らすために

1月21日、石ヶ瀬児童老人福祉センター内にeスポーツルーム「愛称」esports(エスポート)を開設した。4月から「大府市人権を尊重した誰一人取り残さないまちづくり推進条例」を施行した。条例施行を記念し、5〜7月の間に3回、人権連続講演会を開催した。7月から、性的指向や性自認を尊重し、自分らしく生きられる社会を目指して「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を創設した。

7月13日、SNSなどの相談事業を運営するNPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」と連携協定を締結した。

9月21日、「認知症鉄道事故裁判」の著者・高井隆一氏と岡村市長による世界アルツハイマーデー対談を行った。



#### 市独自の施策で、

止まらない物価高騰が家計や企業活動に大きな影響を及ぼしていることから、市独自に「水道基本料金の無償化2023年1・2月と、5月〜2024年2月検針分」の「プレミアム付商品券の販売」を実施した。

4月中旬、国の物価高騰対策である低所得の子育て世帯への給付金(子ども1人あたり5万円)を、県内最速で支給した。小・中学校、公立保育園の給食の質を保ちつつ、保護者の負担を減らすため、給食費の高騰分を公費で負担した。

##### 市民の生活を守り抜く

アップを支援する体制・仕組みを整備し、ヘルスケア分野を中心とした取り組みを主体的に推進していることから、ウェルネスプレー推進協議会が「STATION Aiパートナー拠点」として位置付けられ、愛知県と覚書の締結を行った。

2023年、(株)豊田自動織機長草工場の車両部品物流棟の着工や野村不動産(株)のマルチテナント型物流倉庫Landport東海大府の着工、(株)名張製作所の生産工場の完成など、計16社もの新工場などが着工・完成し、企業誘致が大きく前進した。

### 企業誘致

#### スタートアップ支援

9月6日、デジタル技術を活用し、産学官の連携により、健康寿命の延伸と生活の質の維持・向上を目指す、「あいちデジタルヘルスコンソーシアム」が設立され、市も発起人の一員として参画した。

9月21日、地域を挙げてスタート



※家庭での主体的な学びや体験的な学びを実現するために創設された休日

大活躍！  
おおぶKIDS

## 輝かしい活躍を見せた子どもたち

「平和なまち」がテーマの絵画コンテストで、兼松玖河(当時:東山小5年)さんが最優秀賞、西澤ころこ(当時:大府北中3年)さんが優秀賞を受賞した。

4月22～24日に開催されたチアダンスの世界大会で、市に拠点を置くSPG CHEERDANCE PROJECTのメンバーがSmall Pom部門で優勝を飾った。

7月25日、文部科学大臣杯小・中学校将棋団体戦西日本大会で、高原歩夢さん・坂野翠さん・栗本弘毅さん(大府中)、首藤大地さん・山本怜奈さん・栗本謙仁さん(大府小)がベスト8入りした。

8月18～22日に開催された第45回全国中学校軟式野球大会で、大府北中学校野球部が準優勝を果たした。



9月24日、全国剣詩舞コンクール決勝大会で、永田菜桜(大府中3年)さんが剣舞少年の部、建部有咲(中京大中京高1年)さんが詩舞少年の部で優勝を収めた。その他、多くの子どもたちが優秀な成績を収めた。

## 市民に愛される バイオリンの里おおぶへ

日本のバイオリン王・鈴木政吉がバイオリンの音色の研究に没頭したまち、おおぶ。市民にバイオリンに親しんでもらうための数々の取り組みにより、バイオリンの音色がまちに響いた。

4月15日、鈴木政吉のひ孫にあたるタケカワユキ



キヒデ氏から鈴木家ゆかりのバイオリンが寄託され、歴史民俗資料館で記念企画展「大府とバイオリン展」を開催した。

7月22日、鈴木政吉の生涯や功績などを紹介する常設展示コーナー「大府バイオリン縁起」コーナーをオープンした。6～11月、市内全小学校の4年生を対象に、バイオリンを使った音楽教

育を実施した。全国的に珍しい取り組み。10月22日、大府みどり公園で、「バイオリンの里おおぶ」野外クラシック音楽祭2023(鈴木バイオリン製造㈱が市とのネーミングライツ契約により命名)を開催し、市出身のバイオリニスト・水野紗希さんや大府SUZUKIカルテットなどが奏でる美しい音色に、1300人も市民らが酔いしれた。

さらに、バイオリンをデザインに取り入れた、パラアートの描かれたノベルティグッズの配布や、観光協会による観光PRポロシャツの販売を実施した。



さらに、バイオリンをデザインに取り入れた、パラアートの描かれたノベルティグッズの配布や、観光協会による観光PRポロシャツの販売を実施した。

## 記念すべき都市間交流の節目

8月19～23日に、姉妹都市提携30周年を記念し、市公式訪問団がオーストラリアのポート・フィリップ市を訪問し、歓迎式典や記念植樹、都市会談を行った。7月23～29日に、韓国洪城郡のK-POP高校に市内の高校生を派遣した。



▲30周年記念歓迎式典



▲ダンスレッスンの成果を披露

高校生は同校での寮生活を通して、ダンス授業や韓国伝統文化などを体験した。11月8～11日、洪城郡公式訪問団の大府市への来訪に伴い、都市会談や記念植樹などを行った。



▲新型コロナウイルス感染症対策記録誌

2月21日、基本的な感染防止対策を継続した上で、約3年ぶりに公共施設の利用制限を全面解除した。

3月、地域一丸となってコロナ禍を乗り越えた3年間の経験と教訓を次世代に引き継ぐため、「No Rain No Rainbow 大府市新型コロナウイルス感染症対策記録誌」を発行した。

5月8日、新型コロナウイルス感染症

## 「オール大府」で乗り越えた難局



▲横綱・照ノ富士関の土俵入り

100人を超える力士が参加し、禁じ手を面白く紹介する初っ切りや土俵入りなどで、会場は大いに盛り上がった。

が、5類感染症に変更された。ポート・フィリップ市への中学生海外派遣を4年ぶりに再開した。10月15日、2020年にコロナ禍で中止を余儀なくされた大相撲大府場所が、3年越しにメディアアス体育館おおぶで開催された。横綱・照ノ富士などが、5類感染症に変更された。